



あかまつせきどう
赤松石幢

赤松 個人所有

市指定有形文化財（建造物）

昭和 42 年 4 月 11 日指定

別府と府内（大分市）を結ぶ旧府内道沿いの小高い丘上にある。基礎・幢身・中台・龕部・笠・宝珠からなる重制石幢。総高 229cm。幢身に金剛界四仏の種子があり、それぞれの下に造立の趣旨、建立施主名、二人の娘の戒名・戒位（童女）、造立年月日（天正 9 年〈1581〉 8 月吉日）を陰刻する。それによると松尾紹鉄の追善供養のため、松尾宗円夫婦（カ）が建立したことが分かる。銘文中の頭字に「帰元」や「帰一」と、臨濟宗などでよく使用されるもの

があるので、現在廃寺になっているが近くにあった松音寺（臨濟宗妙心寺派）との関係も考えられる。龕部に六地藏を彫るが、宝珠や中台に比して彫りが稚拙な感じがする（後補か？）。

（小泊 立矢）